

令和2年産米品質改善技術情報 第2報

気象概要

4月は、中旬以降に強い寒気の南下があり、植え傷みが多く発生しました。しかし5月には平年並みの気候が続き、生育は概ね回復しました。6月になると気温が平年並みか高くなりましたが、日照時間はやや少なくなりました。

生育状況

現在の生育は、平年よりやや早くなっています(4月中旬植えは、4/25の低温の影響で平年並です)。

- ・ 分けつがやや少なく、ほ場内のばらつきも大きい(4月の低温)
- ・ 藻の発生(5月下旬からの気温の上昇)
- ・ やや軟弱な生育(6月の日照が少ない)

気象予報:

1か月予報(7月2日、名古屋地方気象台発表)では、温かい空気に覆われやすいため、向こう1か月は気温は高い見込みです。特に2週目は気温がかなり高くなる可能性があります。

3ヶ月予報(6月24日、同)では、7月から9月は平均気温は高い見込みです。降水量はほぼ平年並ですが、8月は高気圧に覆われやすく、降水量は平年並か少ない見込みです。

重点対策は!

斑点米カメムシ類

白未熟粒

いもち病

補植用置き苗の
除去を忘れずに!

いもち病発生対策を!

いもち病の発生量は、やや多(一部ほ場で多)、とされています。圃場を見回り、早期発見、早期防除に努めてください(病害虫発生予察注意報第1号(R2.6.30))。

特に業務用途米(「ほしじるし」など)など、いもち病に弱い品種では、既にいくつかの水田で病斑が確認されています。

※ アメダスデータを利用した葉いもち発生予測(三重県病害虫防除所)

<http://www.pref.mie.lg.jp/byogai/hp/39584007416.htm>

白未熟粒の発生軽減対策を！

梅雨明け後は、高温で経過することも予想されますので、今から白未熟粒と斑点米の防止対策を重点的に行っていきましょう。具体的には、

- ・ 中干し後の水管理は間断灌水とし、できない場合には常時湛水とせず、足跡に水が残る程度とし、数日ごとに田面水を新鮮な水に入れ替えましょう。
- ・ 第1回目の穂肥量、施用時期とも、平年並にしましょう(出穂前15日頃)。
- ・ 第2回目の穂肥は、1回目から5～7日後までとしましょう。
- ・ 穂肥のチツソ量は、合計で4kg/10a までとします。
- ・ 高温年には、穂揃い期に耐暑肥として、チツソ 1kg/10a 施用することも有効です。

◎ 生育中期以降の対策：

- ・ 穂肥量 ⇒ 過剰な粒数、弱勢えい花を防止する。
- ・ 水管理 ⇒ 登熟期の根の活力を維持する。
- ・ 出穂期前後の湛水 ⇒ 籾からの蒸散による影響を軽減し、登熟初期の障害を軽減する。
- ・ 有機質肥料や緩効性肥料の利用(穂肥) ⇒ 登熟期の肥効を確保

充実度を増し、白未熟粒を軽減する

斑点米カメムシ類の対策を！

今年の斑点米カメムシ類は、水田周辺の雑草に集まっています。今後は、水田内に追いつまないように出穂前10日まで(7月上旬に)、畦畔の草刈りを行いましょう。また、水田周辺の雑草にカメムシ類が住み着かないように日頃から水田周辺を良く管理しましょう。

出穂期に斑点米カメムシ類が水稻に散見されたら、乳熟期に薬剤防除を行いましょう。

- ◎ 出穂10日前までの畦畔草刈りの実施
- ◎ 水田周辺の雑草管理の徹底
- ◎ 薬剤防除

近年クモヘリカメムシの生息域が拡大しています⇒

クモヘリカメムシ被害の可能性：

- ・ 穂が垂れない
- ・ 粒数、穂数もあるのに収量が少ない
- ・ 穂はきれいなのに中身が無い。

三重県農業研究所(松阪市)と伊賀農業研究室(伊賀市)におけるコシヒカリ生育予測(予測日：6月26日)

地点	移植日	幼穂形成期	同左平年差	出穂期	同左平年差	作況調査平年値
松阪	4月20日	6月22.7日	4.5日早い	7月13.9日	5.2日早い	
	4月25日	6月24.5日	5.2日早い	7月15.4日	5.9日早い	7月15日
	4月30日	6月26.5日	5.8日早い	7月17.3日	6.3日早い	
	5月5日	6月29.9日	5.3日早い	7月20.3日	5.8日早い	
	5月10日	7月3.0日	5.2日早い	7月23.2日	5.6日早い	
伊賀	5月1日	6月26.6日	7.6日早い	7月19.8日	8.1日早い	
	5月10日	7月1.8日	6.7日早い	7月24.5日	7.0日早い	7月27日
	5月20日	7月7.7日	5.8日早い	7月30.1日	6.0日早い	

※平年差は、1981年から2010年の30年平均気温から予測される幼穂形成期、出穂期との差

※作況調査平年値は、H21年からR1年の実測出穂期の平均値